

ロシア語弁論大会出場 第1位

—北海道連合会会長賞受賞の快挙—

12月19日に行われた「第57回全道ロシア語弁論大会」に、国際コミュニケーション科2年A組大山心花さんが出場し、見事第1位に選ばれ、北海道連合会会長賞を受賞しました。

この大会にはロシア語選択者の代表が毎年出場していますが、最高賞の受賞は開校以来初めてのことです。

大山さんは4月からロシア語の学習を始め、わずか9ヶ月で最高賞を受賞するという快挙を成し遂げました。

今回の弁論のタイトルは「ハラショー（いいね!）」で、5月・6月に来校したウクライナのリーナさんとアメリカの留学生アリーさんとの交流についての日頃の想いを原稿にまとめ、ロシア語に訳して発表したものです。

指導したアンナ・ミハイロヴァ先生によると、「心花さんはまじめに練習に取り組みました。なにも言われなくても毎日のように何回もスピーチを録音して発音やイントネーションを直したり、3分以内になるように、流ちょうになりました。暗記できるまで時間がかかりましたがとてもやりがいがありました。」と話してくれました。

大山さんは「1年生の頃から興味を持っていたので、楽しく参加することができました。」と話しています。来年度以降も大山さんに続く生徒が出ることを期待しています。

本校の国際教育に関わる活動を紹介しています



中国語・日本語通訳コンテスト初出場 敢闘賞受賞

12月13日には、千葉県にある明海大学で「第9回中国語・日本語通訳コンテスト」が開催され、国際コミュニケーション科3年A組の藤原勝寛さんが出場して、通訳訓練の部で敢闘賞を受賞しました。本校からは藤原さんが初めて参加を果たし、初出場で見事敢闘賞を受賞しました。

通訳訓練の部は、1セットの中国語会話から、回答部分のフレーズをできるだけ早い段階で正確な日本語訳にして披露するという形で競われ、藤原さんは明海大学外国語学部編集の中国語教材で勉強して大会に臨みました。受賞後、藤原さんは、「中国語を日本語にすぐ通訳するのが難しかったのですが、貴重な体験ができてよかったです。



国際コミュニケーション科 3A 藤原勝寛さん（写真右端）

今後も中国語のスキルを上達させ、就職先にも役立てたいと想います。」と話していました。

Foreign Language Exchange Festival 外国語交流会

12月17日(火)には、3年 A、B、C 組の生徒が、これまでの外国語学習の総まとめとして、それぞれ学んだ言語について発表する交流会が開催されました。第2外国語を選択していない生徒は「第1外国語」の英語で発表を行いました。2学期期末考査終了後から準備を始めて、短い準備期間の中でも、それぞれ工夫を凝らした楽しい発表が多く、クリスマス前の「おたのしみ会」さながらリラックスした雰囲気でお互いの学習の成果を確かめ合いました。



CBC部 国境の壁ことばの壁文化の壁を越えて “クロスボーダー”に活躍中

開校時から「英語部」として活動してきたこの部は、今年度から名前を変えて「CBC部」になりました。

CBC とは “Cross Border Communication” の頭文字で、文字通り、国境を越えたクロスボーダーな活動を目指し、英語に限らずさまざまな言語によるコミュニケーションを体験しようという理由で新たに名付けられました。

これまで、タイや台湾の学生との交流や韓国料理の調理実習、e-Debate 交流会への参加などたくさんの活動を行ってきましたが、ここでは、年末に行った「キャロリング」の活動を紹介します。海外ではクリスマスの時期に賛美歌やクリスマスソングを歌って募金を呼びかける風習があり、昨年度に引き続き、学校近くのいとく能代南店で「クリスマスキャロル」の活動を行いました。

今回市民の皆様の善意により寄せられた募金額は、総額 29,461 円 となりました。これは SAVE THE CHILDREN という世界の子ども達のために活動している団体に学校を通して全額寄付されました。

今年も募金をしていただいた市民の皆様、どうもありがとうございました。

